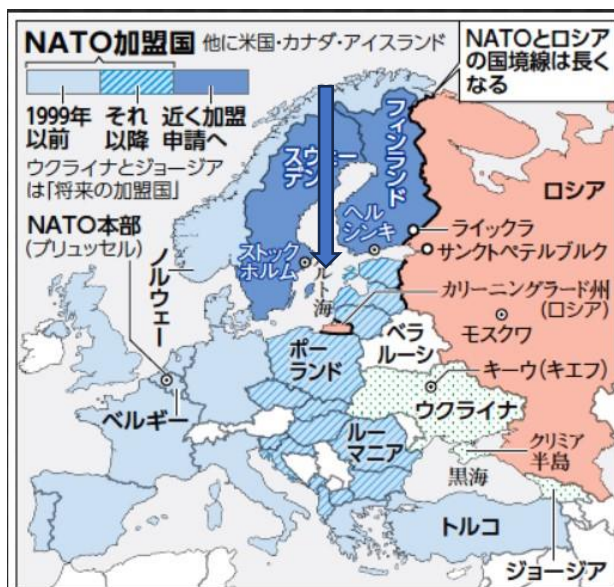


トルコ・スウェーデンの NATO 加盟に同意 (533号)

2023年 8月 石館

NATO のストルテンベルグ事務総長は7月10日、トルコがスウェーデンの NATO 加盟に同意したと明らかにした。これまで反対していたトルコの方針転換により、加盟実現に大きく前進する。

左図のようにスウェーデン、フィンランドが NATO に加盟するとバルト海は実質的に NATO の海となりバルト地方はより防御しやすくなる。



矢印の先バルト海

エルドアン氏はフィンランドの加盟を認めた後もスウェーデンの加盟については頑なな態度を取っていた。必ずしも5月の大統領選で再選を果たしてからというよりも初めからいつどのような条件で落としどころを提示するか考えていたのであろう。

高インフレと通貨安で国内の混乱が続く中、一定の譲歩を示して米欧から軍事・経済双方の支援を引き出す方が得策だと“エルドアン独特の瀬戸際外交”だ。欧米諸国やスウェーデンもエルドアンのこのようなやり方はある程度予測はしていたと思われる。

スウェーデンは1800年代初頭のナポレオン戦争で多くの命と領土を失ったのを機に中立政策を志向した。戦争に主体的に関与せず、約200年間にわたって軍事的中立を保ってきた。ウクライナ侵攻が北欧2カ国の安全保障に対する見方を大きく変えた。NATO 対抗で作られたワルシャワ条約機構のメンバーだった東欧諸国や、旧ソ連のバルト3国は冷戦崩壊後、相次ぎ NATO 加盟を果たした。ロシアのウクライナ侵攻には同国の NATO 加盟を防ぐ目的もあったとも指摘される。

結果として北欧2カ国の加盟を促し、バルト海沿岸の緩衝地帯を失う事態を招いた。

スウェーデンが NATO に加盟すれば、ロシア海軍のバルチック艦隊は“深刻な問題”に直面することになる。ロシアはバルト海沿岸の飛び地であるカリニングラードとロシア第2の都市サンクトペテルブルクに海軍基地を置いている。



「海軍の日」のために整列したロシア海軍艦船（2022年7月、カリニングラード） Vitaly Nevar-REUTERS

ロシアの飛び地カリニングラードのバルチック艦隊。

スウェーデンの NATO 加盟により、バルト海沿岸国はロシアを除いてすべて NATO 加盟国になる。バルト海は実質的に“NATO の海”となり、ロシア艦隊は

本来の力を発揮できなくなる。

スウェーデンは NATO に加盟することで、情報や諜報の共有などでこれまで以上に NATO と連携を強化することになる。またロシアとしては今後、外国の部隊—とりわけ米軍の兵士たちが NATO 軍としてスウェーデン国内に駐留する可能性を懸念するであろう。

トルコはこれまで、スウェーデンがトルコの非合法武装組織クルド労働者党（PKK）を支援していると主張し、テロ対策の不備を批判。先月スウェーデンでイスラム教の聖典コーランが燃やされた事案の発生も強く批判してきた。

スウェーデンはトルコの要望を受け、憲法を改正してテロ対策を強化し、トルコへの武器禁輸も解除した。さらに今回10日のクリステション首相とトルコのエルドアン大統領との会談では、新たな2国間の安全保障協定を結んだほか、経済協力の深化や、トルコの悲願である EU 加盟を積極的に支持することも約束

した。また米国のバイデン大統領は米国製 F16 戦闘機をトルコに売却する意向とも報じられる。米誌ニューヨーク・タイムスは“エルドアン氏の政治的瀬戸際外交は、期待通りの成果を得た”との専門家の見方を伝える一方、トルコがロシア企業の制裁逃れを助けている疑いがあるとし、“これ以上の要求は NATO 内でのトルコと立場を危うくする可能性があった”と指摘した。



エルドアン大統領と握手するクリステション首相

リトアニアの首都ビリニウスで 11 日の開幕した NATO の首脳会議では、スウェーデンの加盟という大きな課題が解決したが、続いて

ウクライナの加盟という難題が待ち構える。バルト 3 国や英国などは早期加盟を支持する一方、米国やドイツなどは慎重な姿勢を示しておる。

結局 11、12 日の会議ではウクライナ側の求めていた NATO 加盟の手続きの開始は見送られ、いつ加盟できるかも明確にしなかった。一方ウクライナ軍に対して NATO 加盟国の軍との協力を進めるため、複数年にわたる支援を行うことや、NATO 加盟国とウクライナが対等の立場で話し合う NATO ウクライナ理事会を創設することなどを盛り込んだ声明を発表した。

この中で、ウクライナの将来の加盟について再確認するとともに、手続きの一部を簡素化し、条件が整い加盟国が同意すれば、加盟に向けた正式な手続きを始めるとしている。しかし、ウクライナ側が今回の首脳会議で決めるように求めてきた手続きの開始は見送り、いつ加盟できるかも明確にしなかった。

声明の発表に先立ち、ゼレンスキー大統領は“NATO への招待や加盟について期限が設定されないとすればありえず、ばかげた話だ”牽制し強く反発していただけに、今後 NATO とウクライナの結束に影響が出るか注目される。

スウェーデンの NATO 加盟について、トルコ議会はエルドアンの与党連合が過半数を占めており、同氏が合意すれば近く批准手続きを行うとみられる。ただトルコ議会はこれから夏休みに入るので批准は早くても 9 月になるであろう。

武装中立を維持してきたスウェーデンやフィンランドは兵器を国産する体制も整っており、戦闘機や潜水艦といった高性能兵器の運用能力も高い。またロシア方面の情報収集や過酷な極地圏での活動能力にも定評がある。両国の加盟は NATO にとって大きなメリットになる。